

事例No.	3308
公表年度	R6
団体の属性	指定都市
団体名	神奈川県横浜市

事例区分	行政改革	タグ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな政策手法の確立・活用 ・ 歳入確保 ・ EBPM
------	------	----	---

事例種類	GX
------	----

事例内容・タイトル

<p>SDGsに取り組む事業者を認証し、取組を後押しする制度 “Y-SDGs”</p>

出典

<p>地方自治研究機構 先進事例調査研究（令和6年度）</p>

SDGs に取り組む事業者を認証し、取組を後押しする制度 “Y-SDGs”

取組のあらまし

取組団体 神奈川県横浜市

取組内容 横浜市では、SDGs 達成に向けて、金融機関と連携し、横浜市SDGs 認証制度 “Y-SDGs” を立ち上げた。金融機関との連携によりESG投資の普及促進等、地域全体の持続的発展を目指している。

推進体制 2名（令和6年度）

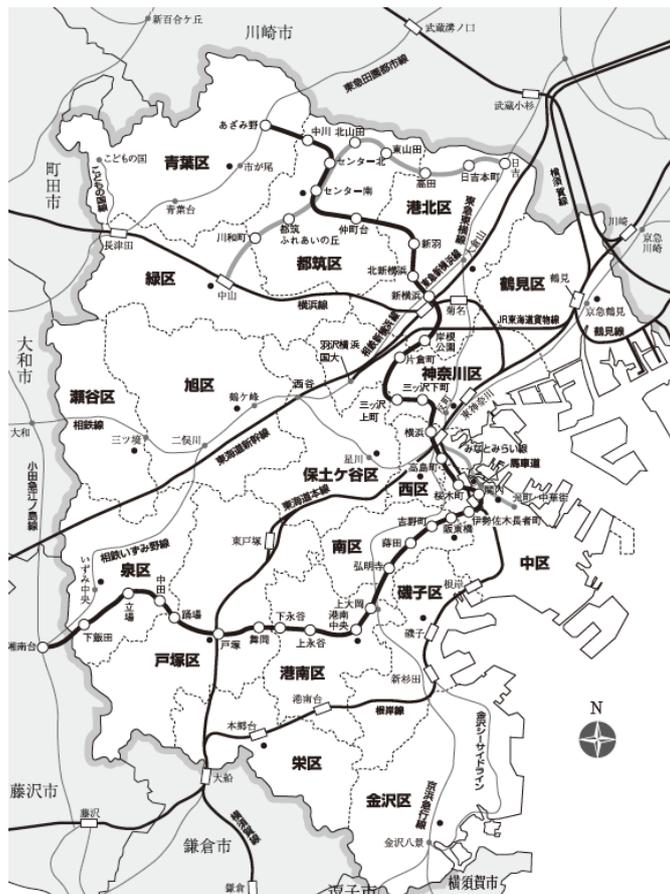
1 神奈川県横浜市の概要

人口 375万2,969人 令和6年1月1日現在（住民基本台帳人口）

職員数 15,445人 令和6年4月1日現在（一般行政部門）

総面積 438.01km² 令和6年1月1日現在（国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」）

図表 1 横浜市の位置図



出所：横浜市『市政記録 2024年版』

2 取組の背景・目的

横浜市は全国でも有数の大都市であり、その都市規模と経済力を持つ一方で、他都市に先駆けて環境負荷や社会的課題への対応が求められている。そこで、持続可能な開発目標（SDGs）の視点を取り入れた政策の展開に向けて、「SDGs 未来都市」としてのビジョンを掲げ、SDGs を具体的な施策に落とし込み、地元の企業や金融機関と連携して取り組んでいる。

横浜市SDGs 認証制度“Y-SDGs”は、こうした中でSDGsの達成に向けて取り組む事業者を横浜市が認証する制度である。事業者の持続可能な経営・運営への転換、新たな顧客や取引先の拡大、さらには、投資家や金融機関がESG投資等の投融資判断への活用につなげることを意図している。

金融機関との連携に当たっては、令和3年（2021年）にY-SDGs 金融タスクフォースが立ち上げられ、Y-SDGs 認証を活用した事業者へのSDGsの普及や取組の促進等を目的に、定期的に会合を持っている。

参加金融機関は、株式会社神奈川銀行、かながわ信用金庫、川崎信用金庫、株式会社きらぼし銀行、スルガ銀行株式会社、株式会社みずほ銀行、三井住友海上火災保険株式会社、株式会社三井住友銀行、三井住友信託銀行株式会社、株式会社三菱UFJ銀行、株式会社横浜銀行、横浜市信用保証協会、横浜信用金庫（五十音順、全13社）であり、横浜市とヨコハマSDGs デザインセンターが事務局を務め、公益財団法人横浜企業経営支援財団が協力している。

Y-SDGs 認証の運営に当たっては、横浜市とヨコハマSDGs デザインセンターと連携し、企業のSDGs達成に向けたコンサルティングや支援プログラムを提供するほか、地域金融機関等との協働により、SDGsに基づく資金調達や投資機会の創出を目指している。これにより、企業が持続可能なビジネスモデルを構築し、地域全体の持続可能な発展を支えることが期待されている。

3 取組内容

(1) Y-SDGs 認証の概要

Y-SDGs 認証は、3つのレベル（スプリーム、スーパー、スタンダード）で構成されている。認証基準としては、環境、社会、ガバナンス及び地域の4つの分野、30項目が設定されており、各評価項目における取組状況によって認証レベルが決まる。評価項目は「横浜市SDGs 認証“Y-SDGs”チェックシート」に示されており、チェックシートに基づき、中小企業診断士である評価員によるヒアリングを踏まえて、その合計点数が8割以上で最上位のスプリーム、6割以上で上位となるスーパー、3割以上で標準であるスタンダードと評価される。

認証期間は、4年間（認証日から4年が経過する日以降の最初の3月31日まで）であり、認証期間中により上位の認証取得を目指し再度の申請（ランクアップ申請）が可能となっている。ランクアップ申請をめざす企業も多く、SDGsの取組の促進要因となっている。

Y-SDGs認証を運営しているヨコハマSDGsデザインセンターは、SDGsの達成に向けて、市内外の多様な主体が持つニーズとシーズをつなぎ合わせ、横浜における環境・経済・社会的課題を解決するための中間支援組織であり、横浜市と民間事業者が共同で設立・運営している。

認証取得を希望する事業者が認証を受けるためには、ヨコハマSDGsデザインセンターへ会員登録し、マイページの認証システムから申請し、審査、ヒアリングを経て、横浜市による認証を受ける必要がある。認証取得後は、横浜市総合評価落札方式での加点や事業者同士の交流会への参加、金融機関からの融資保証料支援などの特典を受けることができる。

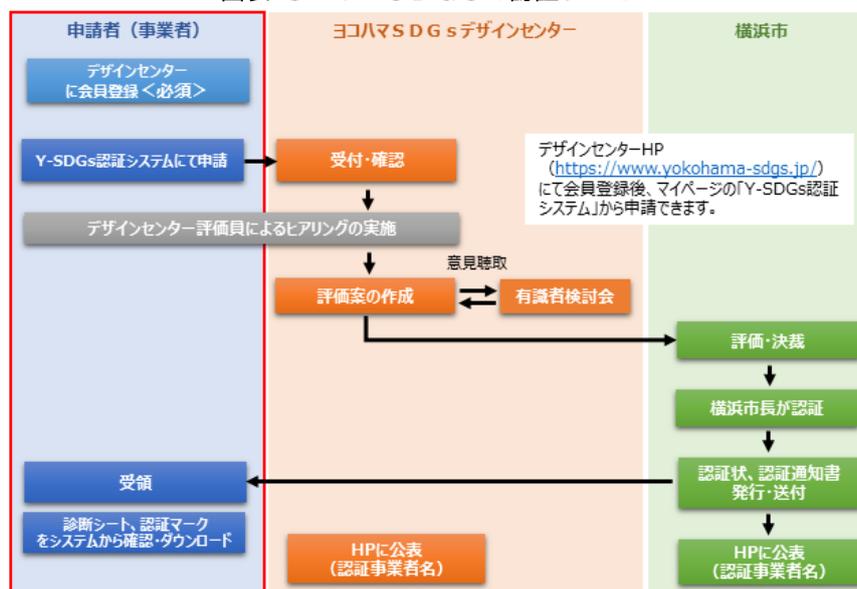
図表 2 Y-SDGs認証の認証区分

認証区分	認証マーク	解説
【最上位】 Supreme (スプリーム)		SDGsへの貢献を高く掲げ、模範として更なる高みを目指していただくとともに、全評価項目の概ね8割以上の項目で高いレベルで取組を進める事業者
【上位】 Superior (スーペリア)		SDGsの達成に向け高く貢献し、更なる高みを目指していただくとともに、全評価項目の概ね6割以上の項目で高いレベルで取組を進める事業者
【標準】 Standard (スタンダード)		SDGsを意識した経営を進めるなど、より高みを目指していただくとともに、全評価項目の概ね3割以上の項目で高いレベルで取組を進める事業者

出所：横浜市ホームページ

(<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/ondanka/futurecity/y-sdgs/ysdgs1.html>)

図表 3 Y-SDGsの認証プロセス



出所：横浜市ホームページ（同上）

(2) 認証制度の活用状況

令和6年（2024年）9月末時点で、認証数の累計は769者となっている。認証を受けた事業者は、様々な業種にわたっており、地域経済の活性化に貢献している。下表に示すように多くの業種業態が対象となっている。

図表 4 Y-SDGs 認証団体の取組例

企業名	事例名	取組内容
石井造園株式会社	未来に伝えるみどりを通じたコミュニティづくり	みどり環境への関心や命の大切さに気付いてもらうきっかけとして無償での苗木の配布や、緑化活動の資金として学校や社会活動団体に寄贈するオリジナル基金「緑化基金」等に取り組む。
公益財団法人横浜市緑の協会	豊かな市民生活の実現や生物多様性の保全に貢献	絶滅危惧種の保護等、国内外の動物園や関係機関と連携し、野生動物の飼育繁殖や調査研究に取り組んでいる。また、市内の緑化推進、花と緑の魅力の普及啓発イベントや文化・芸術イベント等の賑わいの場を提供。
横浜農業協同組合（JA横浜）	食料等の生産を通じて、地域の環境や景観保全に寄与する	規格外野菜等を有効活用し、企業と連携してJAオリジナル商品を研究・開発することで、農畜産物の新たな価値を創出。また、障がい者等の農業分野での活躍を通じて、横浜農業の振興と共生社会の実現を目指す「農福連携」にも取り組む。
相鉄ホテル株式会社	SDGsの取組の重要性を商品・サービスを通して発信する	お客様とともによりよい社会の創造を目指し、自立循環型食品リサイクルループ「ヤサイクル」の導入による食品ロスの削減や、県内・市内の食材を朝食に取り入れる地産地消の取組等を推進。
メタウォーター株式会社	水・環境の課題解決を通じて、持続可能な環境・社会の実現に貢献	横浜市川井浄水場（セラロック）におけるセラミック膜で安全・安心な水道水の増水、省エネ、CO2削減、汚泥100%リサイクルの実現。横浜市水道局「W-eco・p」への参画、水の大切さを学ぶ「出前授業」の実施にも取り組む。
太陽油脂株式会社	石けん事業を通じ、社会・環境の持続可能な発展に貢献	自然由来成分の使用にこだわったスキンケア商品の提供、持続可能なパーム油の調達、石鹸を通じて環境・社会問題を考える「石けん教室」の開催、瀬ヶ崎小学校の児童との協働によるオリジナル石けん「黒船石けん」の開発など、多面的な活動を展開している。

出所：ヨコハマSDGsデザインセンターホームページ スプリーム事例集から当機構作成

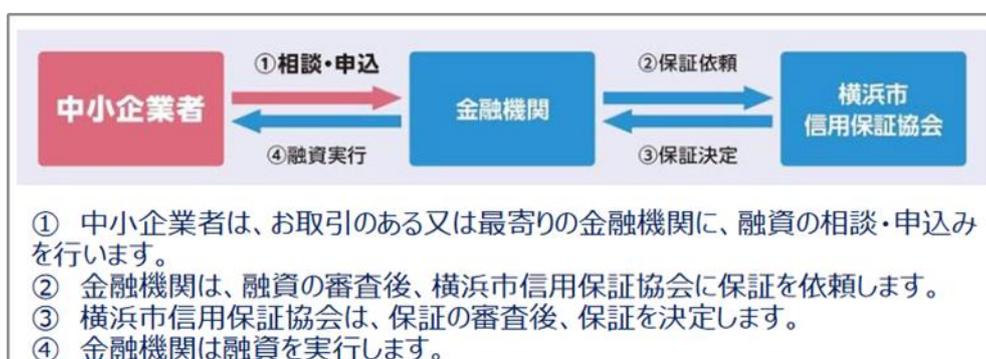
(3) 横浜市中小企業融資制度 SDGs よこはま資金

Y-SDGs 認証は、認証取得事業者に対して金融支援制度を提供していることが特徴となっている。

SDGs よこはま資金は、横浜市中小企業融資制度の一つで、SDGs の達成に向けた取組等を行う事業者向けの融資制度である。Y-SDGs 認証を取得した事業者は、当該制度を活用した融資の対象になる。

また、Y-SDGs 認証を取得した事業者が、SDGs 達成に資する事業を行うために必要な資金を国が指定する金融機関から借り入れる場合、地域再生支援利子補給金制度の対象となり、金融機関を経由して国に申請書を提出することにより、国から予算の範囲内で最大0.7%の利子補給金が得られる。

図表 5 横浜中小企業融資制度 SDGs よこはま資金の仕組み



出所：横浜市SDGs 認証制度“Y-SDGs”活用ガイドブック（2023年3月）

さらに、下記に示すような支援も提供している。

・横浜銀行「くはまぎん」ソーシャル定期預金～つながり、つむぐ～」

「横浜市SDGs 認証制度“Y-SDGs”」と連携し、ソーシャル預金で受け入れた資金を同制度で認証を受けた企業へ融資する金融商品。預入金額は1,000万円以上で、取扱期間は令和8年（2026年）3月31日までの限定商品で、総額1,000億円に達した時点で終了する。

・横浜信用金庫「《よこしん》SDGs・環境サポート『環』」

指定したSDGs 評価制度（Y-SDGs 等）の利用、または認証を受けた事業者、環境関連の認証を取得されている、または新たに取得する事業者などを支援する融資制度。

（4）その他の取組

Y-SDGs 認証以外にも、ヨコハマSDGs デザインセンターではSDGs 達成に向けた様々な取組を進めている。具体的には、以下のような取組が挙げられる。

- ・市内外の事業者や市民と連携した「食品ロス削減SDGs ロッカー」の設置
- ・プロスポーツチームと連携したアップサイクルプロジェクトや、市内の学生と連携した「YOKOHAMA未来デザイン部」プロジェクトの実施

4 成果・課題

（1）取組の成果

ヨコハマSDGs デザインセンターによれば、認証数は、令和6年（2024年）9月末時点で累計769者に達しており、制度創設以来、着実に普及している。

また、認証のランクアップ件数が9月末時点で110件に達しており、上位認証を目指す企業も多く、認証制度が認証取得者のSDGs に対する取組を促進していると考えられる。

（2）今後の課題

横浜市SDGs 認証制度“Y-SDGs”のさらなる普及に向けては、以下のような課題があげられる。

- ・制度の認知度向上
- ・中小企業等の認証取得促進
- ・認証基準の時代に則した改訂等の対応
- ・認証後のフォローアップ体制の強化
- ・認証取得によるインセンティブの拡大

関連・参考資料

横浜市「横浜市SDGs 認証制度“Y-SDGs”」

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/ondanka/futurecity/y-sdgs/>

横浜市「Y-SDGs 金融タスクフォース」

https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/ondanka/futurecity/SDGs_taskforce.html

ヨコハマSDGs デザインセンター

<https://www.yokohama-sdgs.jp/>

一般社団法人環境金融研究機構，2024，「横浜銀行。横浜市の「SDGs 認証企業制度」と連動する「ソーシャル預金」の取り扱い開始。預入額1000万円以上、SDGs 活動に取り組む企業に融資。総額1000億円まで受け入れ」

<https://rief-jp.org/ctl/144341>

横浜信用金庫，「SDGs・環境サポート『環』」

https://www.yokoshin.co.jp/_houjin/shikin/kankyo_support.html